第46回日本水環境学会年会優秀発表賞（クリタ賞）を受賞して

北海道大学大学院工学研究科環境創生工学専攻　大　芝　　淳

この度は日本水環境学会年会優秀発表賞（クリタ賞）を授与いただき，誠にありがとうございました。（公益財団）クリタ水・環境科学振興財団の皆様，学会関係者の皆様および審査に関わられた委員の皆様に心からお礼申しあげます。

私は，水系感染症を引き起こすウイルスの浄水処理性について研究を進めて参りました。日本の浄水処理工程では，凝集沈澱処理においてアルミニウム系凝集剤が広く用いられています。アルミニウム系凝集剤中にはアルミニウムが多種多様な形態で存在していますが，これらの形態の違いが凝集沈澱処理において，濁度や自然由来有機物の処理性に左右する可能性がこれまでに指摘されてきました。

そこで本研究では，アルミニウム系凝集剤の塩基度および凝集剤中のアルミニウム形態組成が大きく異なる凝集剤を自身の手で作成し，これらが凝集沈澱処理におけるウイルスの処理に及ぼす影響を評価した上で，より効果的なウイルスの除去が期待できる凝集剤の開発，浄水処理工程におけるウイルス除去メカニズムの解明を目指しました。その結果，広範な pH 領域においてウイルスをより効果的に除去可能な，新規アルミニウム系凝集剤の開発に成功しました。

今回の発表は，大学，大学院での３年間の研究活動における最後の学会発表となりました。研究活動の最後に，このような大変権威のある賞を受賞できたことは光栄に思います。本学会での発表において，会場にて私の発表へ足を運んでくださり，ご質問やご意見をいただいた方々には心から感謝申しあげます。とくにポスター発表では，様々なバックグラウンドを持つ方々から大変参考になるご意見をいただいた他，口頭発表では得ることのできない大変貴重な経験をさせていただきました。短い時間の中で簡潔かつ論理的に説明する能力の重要性を痛感すると共に，この貴重な経験を今後社会に出た上での糧としたいと思います。

最後に，本研究を遂行するにあたり手厚いご指導を賜りました北海道大学大学院工学研究院の松井佳彦教授，松下拓准教授，白崎伸隆助教，本研究における分析に際しご協力をいただきました北海道大学創生研究機構教養機器管理センターの岡征子様，北海道大学大学院理学研究院の熊木康裕様，そして，研究生活のみならず多くの支援をいただいた環境リスク工学研究室の皆様ならびに，郷里を離れた地での生活を支援してくれた両親，家族に心より感謝申しあげます。